

未来 ひだか

みらくる

2008年 8月

日高農業改良普及センター

成果を上げつつある重点普及活動

農業改良普及センターは、平成13年度から活動地域を絞り込み、地域の重要課題に重点的に取り組んできました。平成17年度から5カ年計画でスタートした現在の課題は今年で4年目を迎え、すでに様々な成果が得られています。

これらの重点課題や各種事業によって得られた成果の一部を紹介します。

西部支所

平取町

多様でゆとりある農業経営の確立

日高町

施設野菜や畑作物による複合経営の推進

広域専門(園芸)

施設野菜における土壌病害虫の防除対策の確立



本所

新ひだか町静内

収益性の高い複合経営の定着化

新ひだか町三石

多様な複合経営体の確立

新冠町

地域に適応した技術改善による

経営の安定化

広域専門(畜産)

軽種馬経営から肉牛への転換

または複合化による経営の安定化

広域専門(軽種馬)

軽種馬農家の経営安定に向けた

技術の普及



東部支所

浦河町

肥育牛の生産拡大による経営の安定

農繁期に入り農薬を使う機会が増えてきます。
農薬は適正に保管し、正しく使いましょう。



農薬はラベルの注意事項をよく読んで正しく使いましょう



薬剤の容器はフタをきちんとしめて、数量を確認し、鍵の掛かる農薬専用保管庫に入れましょう

農業生産法人「豊穂」の取組 (新ひだか町静内豊畑)

～地域活動から法人経営立ち上げへ～



本所

平成17年から、収益性の高い複合経営の定着を課題に、新ひだか町豊畑地区で活動しています。集落15戸の農業所得10%向上を目標に、「水稻の品質向上」と「ミニトマト・ほうれんそうの生産性向上」について推進してきました。

その過程で、地域の農業者から、「経営主の高齢化」や「雇用労働力の確保」、「後継者対策」など、地域の現状を考慮すると、個別経営による営農継続と発展には限界があるため、改善策として共同法人経営を検討したいとの提案がありました。

普及センターでは全面的な支援を行い、共同法人の事例提供や共同法人化に向けての講習会や懇談会や先進事例の視察研修、共同法人設立の経営シミュレーションなどについて、農業者や町、農協と共に検討を重ねてきました。

その結果、平成19年6月に3戸による農業生産法人「豊穂」が設立され、現在は水稻22haと延べ3700坪のハウス団地で営農を展開しています。

今後は、法人経営の早期安定化を目指し、生産・労働・財務などの経営管理を全面的に支援し、法人経営の早期安定化を目指します。そして、豊畑地区水田農業の牽引役として、更には「新ひだか地域農業の発展」に貢献出来るよう、農業者・関係機関と共に取り組んでいきます。



懇談会で地区の意向を取り入れながら地域活動を推進



「豊穂」の構成員のみなさんとハウス

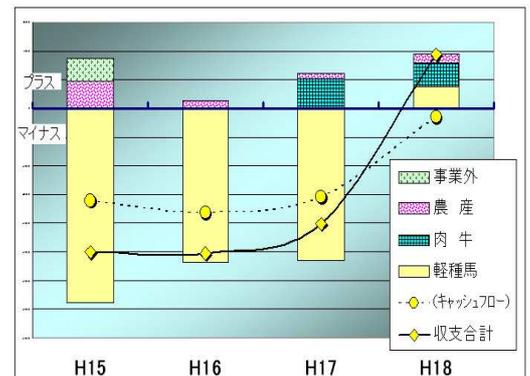
肉牛導入による経営の安定化

19年は対象4戸の経営全般（土、草、牛、施設、労働などに関する技術改善、肉牛導入後の経営収支の検討）に渡って活動を展開し、次のような活動成果が得られました。

- 土壌に関するデータ把握と改善
土壌成分を把握し20年度に向けての施肥設計を実施した。
- 草地に関するデータ把握と利用
ほ場別に粗飼料分析値と確保量を把握し、育成牛用、繁殖牛用に区分できた。
- 粗飼料を主体とした育成技術の確立
確保した粗飼料分析値を基にした飼料給与メニューの提案により、粗飼料を主体とした育成牛飼養管理モデルが確立されつつある。
- 作業労働の把握と作業改善
作業労働調査の結果から各農場の作業労働の特徴を整理し改善策を提案した結果、除糞作業の軽減等の改善が図られた。
- 肉牛導入による経営成果の確認
増頭途中であり販売頭数、販売額は少ないものの肉牛部門の所得は確実に向上し経営安定化の基盤が築かれつつある。



草地土壌サンプルの採取



重点農家の部門別経営収支

西部支所



JA出資型の農業法人で遊休農地再生を推進

日高町富川地区では離農、軽種馬経営の縮小に伴い遊休地が増加する傾向にあります。そのためJA富川では平成18年からJA出資型の土地利用型作物経営の農業法人を設立し、農地の再生を進めています。



ばれいしょマルチ栽培の試み

平成19年度はJA富川を中心に各機関の協力により生産性の向上と、それに基づく経営計画の再考により経営の向上を推進しました。

その結果、てんさいの風害による再は種、食用ばれいしょの象皮症状などにより減収があったものの、生産額が27,057（千円）と前年に比べ2.5倍の大幅な伸びを示しました。

今年度は生産額のさらなる向上とコスト削減により経営の安定化を推進します。

関係機関協力
でばれい
しょ収量調
査



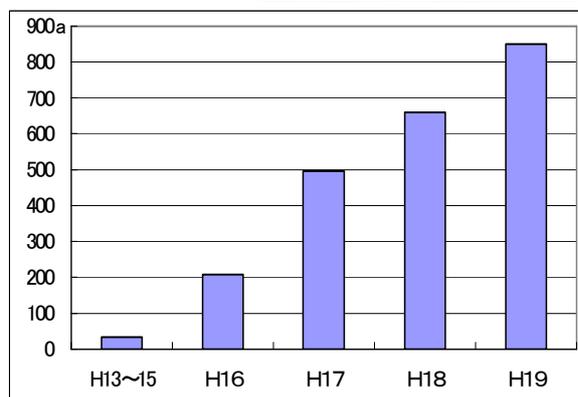
環境への負荷が少ない土壌消毒法が定着

平取町トマト胡瓜部会では、農薬を使用しない土壌消毒に取り組んでいます。

農薬を使用しない土壌消毒方法は、有機物を施用し土壌を還元状態にして殺菌する還元消毒法と、熱を利用する熱水消毒法、蒸気消毒法などがあります。その中でも環境負荷が少なくコスト面で有利な還元消毒法に注目しました。部会では、プロジェクトチームを立ち上げ、平取町に適した還元消毒法の技術開発と定着するための活動を行いました。

その結果、還元消毒法は広く定着し、昨年度は約8.5haで実施されました。本年度も、昨年以上の面積での実施が見込まれており、還元消毒法は平取町になくてはならない技術となりました。

プロジェクト
チームによる
土壌病害発
生実態調査



還元消毒の
実施面積
(JA平取栽培
面積:111ha)



東部支所

地域力で再生 土地利用型農業 こだわり農産物への実証

様似町では、地域農業の担い手の育成・確保と農地の遊休地化を抑えるために、平成19～21年の3年間の計画で、地域の気象・土壌、農業者の高齢化に対応した新作物導入をめざした実証を行っています。

昨年の成果としては、農産物の生産支援体制が確立され、「地域力で再生・土地利用型農業こだわり農産物への実証」を活動スローガンに、農業者・役場・農協・普及センターが目的を共有して実証活動に取り組むことができました。つぎに、農産物の加工・販売の仕組みが確立され、地元レストランと食品会社の協力で、生産された農産物を使った新商品を開発し、地域で販売されました。

今後は、生産から加工・販売までの仕組みをフル活用し、付加価値のある地域の特産を育てることで、農業所得を向上させ、農地の遊休化を抑え、土地利用高付加価値型農業地帯を形成して地域農業の担い手育成確保につなげたいと考えています。



今年のばれいしょ実証ほ設置の様子



今年のばれいしょ実証ほの様子



様似産ばれいしょが入った焼くとラベンダー色に変わるパン(提供: ぱんぱかぱん)



様似産ばれいしょを使った3色タルト(提供: Eyam)



農業改良普及センターでは普及センターだよりのほかにもインターネットを通じてリアルタイムな情報や地域の話題をお届けしています。下記のホームページを是非ごらん下さい。

日高農業改良普及センター農業情報未来ひだか

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/hdk/index.html>

日高農業改良普及センター本所

TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521

〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/hdk/honsyo/index.html>

日高農業改良普及センター東部支所

TEL 0146-22-9347 FAX 0146-22-2559

〒057-8558 浦河郡浦河町栄丘東通56号 日高支庁内

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/hdk/tobu/index.html>

日高農業改良普及センター西部支所

TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918

〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/fukyu/hds/index.html>